

もも管理特報 No. 2

平成30年3月19日
みな穂もも振興会
みな穂農業協同組合
新川農林振興センター

○3月下旬～4月 ももの作業チェック表

作業内容	作業のポイント	実施適期	実施予定日 (自己記入)	実施日 (自己記入)
摘蕾	<ul style="list-style-type: none">中庸な樹勢のもので全体の70%程度の蕾を落とす。強摘蕾の場合は、<u>全体の90%程度の蕾を落とす</u>主枝・亜主枝先端や伸ばしたい枝は全て摘蕾定植1～2年目の樹は全て摘蕾する	3月下旬～ 4月上旬		
人工授粉	<ul style="list-style-type: none">花粉の無い品種（川中島白桃、なつき等）に対して実施50%程度開花時および80%程度開花時に2回程度実施する晴れた気温の高い日に行う	開花期 1. 生育状況の開 花予測を参照		
灰星病・せん孔細菌病罹病枝の切除	<ul style="list-style-type: none">落花期以降に症状が発見しやすくなる症状のある部分の枝を切除し、園地外で処分する	開花期～ 落花期以降		
防除の実施	<ul style="list-style-type: none">散布ムラが生じないように丁寧に散布する	2. 病虫害防除の (2) 参照		

1 生育状況

3/12時点での「あかつき」の開花予想は右表のとおりである。

12日以降の気温が極めて高かったため、右表よりも早まると予想される。開花時期は、今後の気温により大きく変動するので、計画的な作業に努める。

「あかつき」の開花予想

	開花始期	開花盛期
本年（予想）	4/12～13頃	4/14～15頃
平成29年	4/11	4/14
平年値	4/12	4/15

2 病虫害防除

(1) 耕種的防除の実施について

【灰星病】

- 花腐れ症状（花卉が褐色になり腐る症状）は見つけ次第切除し園地外で処分する。

【せん孔細菌病】

- 芽の枯れ込み、葉芽の奇形・不発芽、枝が黒～褐色に変色等の春型枝病斑が疑われる枝は切除し、園地外で処分する。



↑ 花腐れ症状



春型枝病斑

(2) 薬剤散布について

4月は、せん孔細菌病、灰星病の重要防除時期です。下記により、計画的な防除を実施する。なお、下記の散布時期はあくまでも目安であるので、生育及び開花状況を確認しながら、適宜実施する。また、適正な散布量により効果的な防除に努める。

【結実樹】

回数	散布時期	対象 病害虫	薬剤名と希釈倍率		水100% 当たり 薬剤量	散布量 %10a	防除実施日 (自己記入)
2	4/7~10頃 開花直前	せん孔 細菌病	ムッシュボルドーDF	500倍	200g	350	
3	4/17~19頃 「川中島白桃」 受粉後	せん孔 細菌病、 灰星病	アグリマイシン-100 ロブラール500アクア 展着剤 マイリノー	1,500倍 1,000倍 20,000倍	66g 100cc 5cc	350	
特 散	3月下旬~ 4月下旬 ※粗皮の粗くない 若い樹が対象	コスカシバ 日焼け防止	ガットサイドS	1.5倍	樹幹部及び主枝 に塗布		

【未結実樹】

回数	散布時期	対象 病害虫	薬剤名と希釈倍率		水100% 当たり 薬剤量	散布量 %10a	防除実施日 (自己記入)
2	4/7~10頃 開花直前	せん孔 細菌病	ムッシュボルドーDF	500倍	200g	100	
3	4/17~19頃	せん孔 細菌病	アグリマイシン-100 展着剤 マイリノー	1,500倍 20,000倍	66g 5cc	100	
特 散	3月下旬~ 4月下旬 ※粗皮の粗くない 若い樹対象	コスカシバ 日焼け防止	ガットサイドS	1.5倍	樹幹部及び主枝 に塗布		

※縮葉病の被害葉は、見つけ次第芽ごと摘み取る。

※ガットサイドS(成分MEPを含む殺虫剤)の樹幹処理は、収穫後~収穫まで、すべての割合わせて1回のみとする。

農薬散布にあたっては、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください！

樹齢別散布量の目安

植付け後年数	10アール当たり 散布量(リットル)	植付け後年数	10アール当たり 散布量(リットル)
1年目	50~100	4~5年目	300
2~3年目	150~250	6年目以降	400

※上記の散布量の目安は、5月中旬以降の目安である。5月上旬までの葉の展開があまりしていない時期は、これよりも少なくなる(2-(2)の散布量参照)。

3 摘蕾

(1) 実施時期

花蕾が丸くふくらみ、その先端にピンク色が見え始めた頃から、花弁がややふくらんできた頃（3月下旬～4月上旬頃）。本年は3/12以降の気温が極めて高く、3/15時点でかなり蕾が取れやすくなっている。

(2) 摘蕾程度（表1参照）

○主枝、亜主枝の延長枝（先端から50cm程度）は全摘蕾

○慣行は、全体の70%程度の蕾を摘蕾

○強摘蕾（富山型もも栽培体系、図参照）を実施する場合は90%まで摘蕾

※花粉のない品種は50%程度の蕾を摘蕾する。強摘蕾は行わない。

表1 摘蕾で残す蕾の数の目安

果枝長	慣行	富山型もも栽培体系
短果枝	先端付近に1～2個	先端付近に1個
中果枝	中央部に2～3個	中央部に1～2個
長果枝	中央部に4～8個	中央部に3～4個

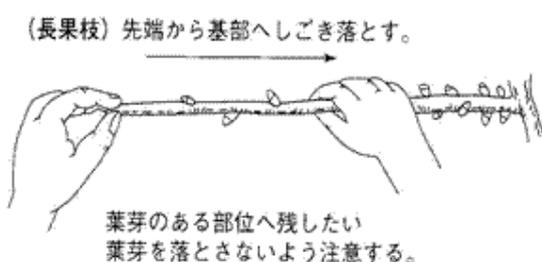
富山型もも栽培体系における摘蕾は、通常、予備摘果で残す果実数と同じ蕾数を残す

(3) 留意点

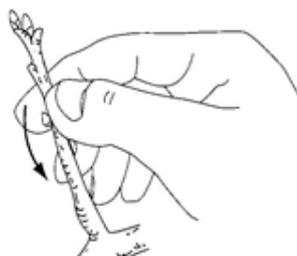
○1～2年目の苗木の花芽はすべて摘蕾する。

○葉芽を傷つけないように注意する。

【実施方法（やり方）】



(短果枝) 指先でもむようにして落とす。



4 人工受粉

花粉のない品種（「川中島白桃」「なつき」等）では人工受粉が必要である。受粉は開花率が50%程度と80%程度に達した時を中心に、2回程度実施する。

【実施方法（やり方）】

①花粉がある品種（開花・開葯しているもの）に毛バタキ（鳥の羽根等、花粉が付きやすいものが適当）等で軽く触れる。

②毛バタキに花粉（黄色い粉）が付着するのを確認し、花粉のない品種のめしべを同じ毛バタキで軽くなぞる。

